

平成15年度ヘテロカプサ赤潮等緊急対策事業（抄録）

加藤慎治・萩平 将・宮田 匠

本調査は近年その分布を拡大しているヘテロカプササーキュラリスカーマ (*Heterocapsa circularisquama*) の東部瀬戸内海における初期発生域，予察技術を開発するため，平成15年6月16日～10月27日の間，香川県，兵庫県，水産庁及び民間機関との共同でプランクトン出現調査，海洋環境調査等を実施したものである。

平成15年度における徳島県担当水域（播磨灘南東部（内の海を含む。））での本種の出現状況について取りまとめたので，その概要を報告する。なお，詳細については「平成15年度赤潮予察技術開発試験 ヘテロカプサ赤潮等緊急対策事業 成果図集」を参照されたい。

*Heterocapsa circularisquama*の出現状況

内の海では平成10年に本種が3,300cells/mlに達する赤潮を形成したが，平成11年は最高5.0cells/ml，平成12年は未検出，平成13年は405cells / ml，平成14年は8cells/mlの出現であった。本年度は内の海では11月下旬から12月上旬にかけて低密度（0.02cells/ml）ながら検出されたが，増殖することなくそのまま終息した。なお，本種による漁業被害は報告されていない。

また，播磨灘海域においては前年に引き続き本種の発生はみられなかった。